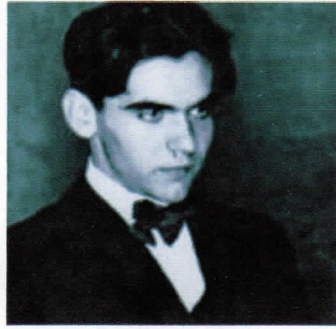


ロルカ詩祭

第24回



2021年 8月21日

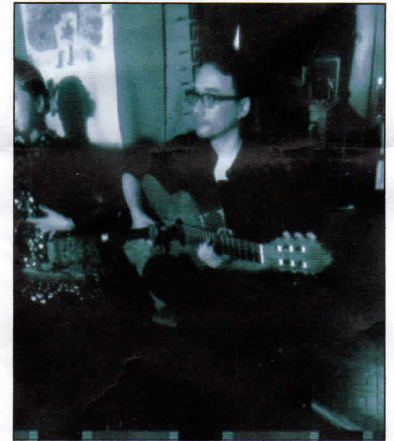
外で見る夢のカシーダ

高谷和幸

★

「私はどこで死ぬのだろう」。この不安はコロナ禍中の深刻な問題である。人の生を水の泡に譬えた人でさえも自分のための終の棲家に強い拘りがあったと言えればお叱りをうけるだろうか。ロルカもその例に倣うように、スペイン内戦の反乱軍に狙われる危機が逼迫するなか、魂の眠る場所と決めていたグラナダのタマリットに帰っている。その時には最後の詩集である『タマリット詩集』の編集は終わっていたが、死の直後に弾圧を受け、スペインを逃れてアメリカで産声を上げることになる。その死の実態が見つからないミステリーが悲劇性を増すばかりだが、一方で『タマリット詩集』は古典アラブ文学の形式、カシーダやガセーラで書かかれているのも興味深いものがある。カシーダ等のスタイルは、楽器つきで歌われるのが特徴の一つだ。特に私が興味深かったのは「外で見る夢のカシーダ」だった。重いテーマである、愛・自由・死がジャスミンの花・少女・血まみれの闘牛の頭に隠喩として書かれている。そこに不思議な比喩の空間があり、ジャスミンの植物的生命の再生の物語と、ロルカ自身の予感としての死、そこからの復活が込められているように思える。「自己再生のために、ジャスミンの眠りに眠らせてくれ」と、聞こえるのだ。植物が土の中で不死性を受け継いできたように。

ポエジー 赫い詩精が 炸裂する!!



〈朗読の伴奏&ソロ演奏〉

Rodrigo Mabel

ブラジル・サンパウロ生まれ。日系三世。少年時代からギターに親しむ。19歳の時に日本（大阪）へ。そこでフラメンコと出会い関西を中心に活動。出自のブラジル音楽もこだわり、日本とブラジルを行き来しながら自分の音楽スタイルを探る。

- 〈朗読者〉
- ①安西佐有理 ②大西隆志 ③大橋愛由等 ④和比古
 - ⑤木澤豊 ⑥金里博 ⑦黒田ナオ ⑧近藤久也 ⑨今野和代
 - （伴奏者・山澤輝人・テナーサククス） ⑩情野千里 ⑪千田草介
 - ⑫高木敏克 ⑬高谷和幸 ⑭西海ゆう子
 - ⑮にしもとめぐみ ⑯野口裕 ⑰森崎大青

〈詩祭スケジュール〉

8月21日(土)午後5時 開場

〔1部〕14時30分～16時

ロルカ詩の朗読

〔2部〕17時15分～18時30分

詩人たちの自作詩朗読

〈場所〉スペイン料理カルメン(神戸市中央区北長狭通1・7・1 電話078-331-2228 650-0012)

JR・阪急・阪神・地下鉄「三宮駅」から徒歩三分。

〈料金〉A:3800円(チャージ・税込み) (1)夏の特選

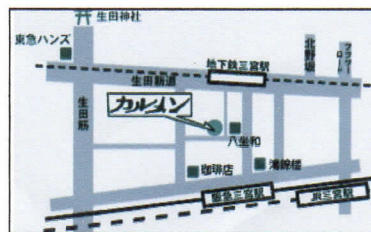
スープ (2)季節のサラダ (3)メインディッシュ

(4)パエリア (5)コーヒー (6)デザート

B:2200円(チャージ・税込み) (1)ワンドリンク(選択可) (2)本日のタパス

〈特典〉当日参加者の方全員に、第二部参加の詩人たちが朗読する詩作品掲載の『八月一九日詩集24巻』を進呈します。

ロルカ詩祭会場 スペイン料理カルメン



☎078-331-2228

神戸市中央区北長狭通
1-7-1 カルメンビル2F
阪急・阪神・JR・地下鉄の
各三宮駅から徒歩1~4分

〈ロルカ詩祭〉は、スペインの国民的詩人であるフェデリコ・ガルシア・ロルカ(1898-1936)がファシストによって銃殺された8月19日近くの土曜日に開催する詩の朗読会です。ロルカ生誕100年の1998年から神戸三宮のスペイン料理カルメンで開催しています。